



本市がセーフコミュニティに取り組むにあたり、さいたま市の事故、ケガの現状を分析する「さいたま市セーフコミュニティ第1回データ分析検討会議」が開催されました。



平成28年1月27日(水)に「第1回データ分析検討会議」が開催されました。

事前に事務局で収集した、市内の事故、ケガに関するデータ等を基に、有識者2名と庁内データ所管課職員6名により、検討を行いました。

<主なデータ>

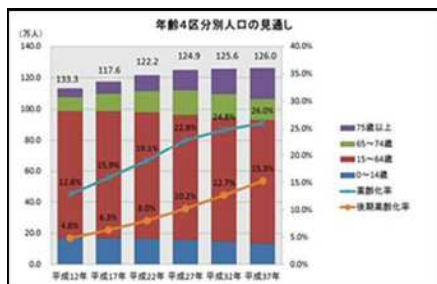
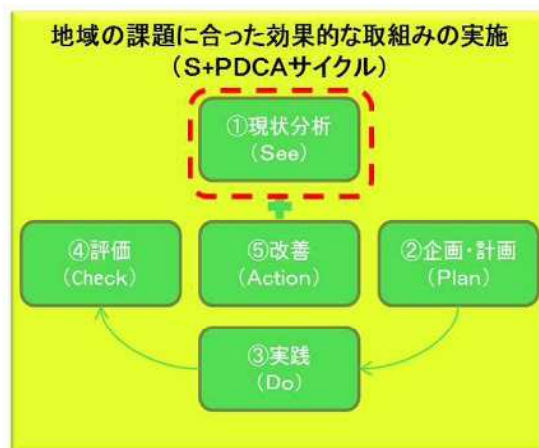
- ・人口統計・国勢調査・人口動態統計
- ・救急搬送データ・警察統計・警察、市所管で所有しているデータ(交通事故、DV、虐待など)

<データ分析検討会議>

セーフコミュニティの取り組みでは、データ(根拠)に基づいた活動が非常に重要です。また、活動内容の評価し、工夫を重ねより効果的な活動を継続的に行います。

データ分析検討会議では、データ収集、分析、評価を行って行きます。その情報は実際に活動を行う、対策委員会へ提供します。

第1回目は、右記図の①現状分析。さいたま市のセーフコミュニティが取り組む対策が検討されました。対策が決定したら、より詳細なデータを収集、分析を行います。



順位	項目名	死亡者数	年平均	死亡率	構成比
1位	悪性新生物	35,284	7076.8	565.3	38.0%
2位	心疾患(塞血性心疾患)	13,440	2688	214.7	21.3%
3位	脳血管疾患	7,554	1510.8	120.7	11.3%
4位	肺炎	4,256	851.2	68.0	6.4%
5位	自殺	4,187	837.4	66.9	6.3%
6位	交通事故	1,552	310.4	24.8	2.4%
7位	不慮の事故	1,321	264.2	21.1	2.0%
	不慮の災害	1,196	239.2	19.1	1.8%
	不慮の病死	319	63.8	5.1	0.5%
	交通事故	199	39.8	3.2	0.3%
	不慮の溺死及び溺水	79	15.8	1.3	0.1%
	転倒・転落	280	56.0	4.7	0.4%
	有害物質による不慮の中毒、曝露	25	5	0.4	0.0%
	煙、火及び火災への曝露	30	6	0.5	0.0%
	その他の不慮の事故	248	49.6	4.0	0.3%
8位	腎不全	761	152.2	12.2	1.2%
9位	計点数	622	124.4	9.9	0.9%
10位	糖尿病	495	99	7.9	0.7%

<対策(案)>

- ①高齢者の安全対策
- ②子どもの安全対策
- ③自転車の安全対策
- ④DV対策
- ⑤自殺対策



セーフコミュニティ推進協議会で正式に決定されます。





「みんなでつくる安心安全なまち！ さいたま市は、セーフコミュニティに取り組みます！」



さいたま市は、世界基準の安心安全なまちづくりを目指して、WHO（世界保健機関）が推奨するセーフコミュニティの認証取得を目指します。

日常生活の中で市民の健康を阻害する要因としては、主に病気、ケガが考えられます。病気については、健康診断など予防に対する考えが進んでおります。しかし、ケガについては予防の概念が少なく、セーフコミュニティはこれらを予防していく手法として活用します。

セーフコミュニティの特徴

■分野の垣根を越えた連携

市民団体、企業、警察、市などで連携するネットワークを作りさらに安心安全なまちをつくります。

■データ（根拠）に基づいた取り組み ■取り組みの評価、工夫

事故やケガのデータを活用して、より効果的な取り組みを行い、どのような効果が得られたか評価し、工夫をします。



セーフコミュニティ 活動開始宣言！

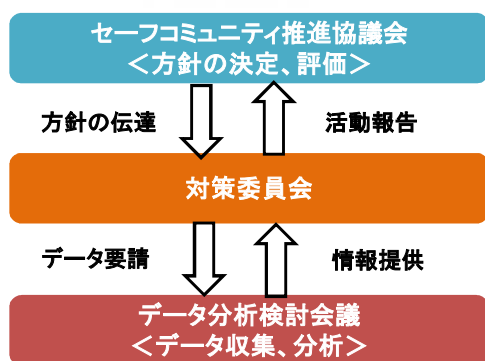


平成28年3月24日（木）に市長、副市長、関係局長、市自治会連合会長等で構成される「さいたま市セーフコミュニティ推進協議会」が開催されました。

先日、開催された「データ分析検討会議」で出た対策（案）について検討し、本市のセーフコミュニティは、①高齢者の安全対策②子どもの安全対策③自転車の安全対策④DV対策⑤自殺対策の5つの分野に取り組むことが決定されました。

また、市長から日本セーフコミュニティ推進機構の事務局長、今井 久人氏へ「さいたま市セーフコミュニティ活動開始宣言書」が手渡されました。

セーフコミュニティの体制



対策委員会の連携





「セーフコミュニティを学ぼう！」

「セーフコミュニティ」って何？聞いたことありますか？！Vol.3では、セーフコミュニティの歴史、日本におけるセーフコミュニティの状況について説明します。

セーフコミュニティの歴史

コミュニティレベルでの安全向上活動のモデル「セーフコミュニティ」の第一人者であるレイフスヴァンストローム氏によると、基盤となる取り組みは、1975年にスウェーデンにおいて始まったとされています。スカラーボリ群にあるファルシェーピング市において、全ての年齢層・環境・状況を対象とした包括的な手法によって外傷の発生をコントロールする試みが始まりました。その試みは、新しい仕組みを構築するのではなく、従来からある組織の協働によって行われました。

彼らは、1978年には、外傷に関する記録を開始し、1979年に外傷の予防対策に着手しました。その後、3年で、就労・家庭そして交通に関する受傷は27%減少し、ファルシェーピングは、1991年にセーフコミュニティとして認証（世界で5番目）されることとなりました。

この取り組みは、周辺の自治体でも導入され、1980年初期には、これらの自治体間でのセーフコミュニティに関するネットワークが構築されました。さらに、その後、ノルウェーやオーストラリアの幾つかのコミュニティでも取り組みが始まり、国を越えたセーフコミュニティのネットワークが誕生しました。

1986年には、当時、健康課題として外傷に関心を寄せていた世界保健機関（WHO）との協力関係が構築され、1989年には、レイフスヴァンストローム氏が所属するカロリンスカ医科大学にWHO協働センターが設置され、セーフコミュニティ認証制度が始まりました。以来、国や地域を越えてその概念と活動は広がり続け、2014年5月現在では、約340のコミュニティが「セーフコミュニティ」として認証されています。

出典：安全なまちづくり 日本版「セーフコミュニティ」の進め方

セーフコミュニティ

1975年 外傷の発生をコントロールする試みが始まる。
1978年 外傷に関する記録開始
1979年 外傷の予防対策着手
1986年 WHO（世界保健機関）との協力関係が構築される。
1989年 WHO協働センターが設置され、認証制度が始まる。

セーフコミュニティ認証取得自治体

開始	自治体名	認証年月
2006年	京都府亀岡市	2008年3月
2007年	青森県十和田市	2009年8月
2008年	神奈川県厚木市	2010年11月
2009年	長野県箕輪町	2012年5月
2010年	東京都豊島区	2012年11月
2010年	長野県小諸市	2012年12月
2010年	横浜市栄区	2013年10月
2011年	埼玉県北本市	2015年2月
2011年	大阪府松原市	2013年11月
2011年	福岡県久留米市	2013年12月
2012年	滋賀県甲賀市	2016年2月
2012年	埼玉県秩父市	2015年11月
2013年	鹿児島県鹿児島市	2016年1月

日本における セーフコミュニティ

2000年ごろから公衆衛生等の一部の領域の研究者がセーフコミュニティの概念に着目し、関心を寄せていました。また、「セーフティプロモーション」というアプローチに関心をを持った研究者や実践家もいましたが、実際にコミュニティレベルにおいて活動が開始されたのは、2006年に京都府亀岡市が府から打診を受けてセーフコミュニティに取り組んでからです。

京都府亀岡市は、2006年7月に着手し、2008年3月に認証を受けました。それ以降、次第に日本国内でも広がり始め、2016年3月現在では、13自治体が認証取得をしています。

セーフコミュニティ認証の7つの指標

①組織の設置	分野の垣根を越えた協働を基盤とした推進組織を設置する。
②長期で継続的なプログラム	全ての性別、年齢、環境、状況をカバーする。
③安全性を高めるプログラム	ハイリスクの集団・環境、及び弱者を対象としたプログラムを実施する。
④エビデンス（証拠・根拠）	根拠に基づいたプログラムを実施する。
⑤記録	傷害が発生する頻度とその原因を記録するプログラムがある。
⑥アセスメント（客観的評価）	プログラムの内容・実施工程・影響をアセスメントするための評価基準がある。
⑦ネットワークへの参加	国内及び国際的なセーフコミュニティネットワークへ継続的に参加する。



認証取得までの流れ

活動開始宣言

審査

認証取得

2年以上の活動実績が必要です！





第1回・2回さいたま市セーフコミュニティ合同対策委員会を開催しました。

5月23日(月)、第1回さいたま市セーフコミュニティ合同対策委員会を開催しました。ここでは、一般社団法人日本セーフコミュニティ推進機構、白石 陽子代表理事から、事故やケガを減らすための予防活動を通じて安心安全なまちづくりすすめるセーフコミュニティの取り組みについて他市の取り組み事例を踏まえながら説明を受けました。

6月27日(月)、28日(火)、第2回さいたま市セーフコミュニティ合同対策委員会を開催しました。ここでは、各対策委員会ごとにワークショップ形式で委員の経験や問題意識を踏まえて事故やケガが起きる原因について話し合いました。今後は、行政が持っている事故やケガに係るデータを踏まえて、客観的に原因を捉え、より踏み込んだ話し合いを行い、セーフコミュニティの取り組みを進めていきます！



第1回セーフコミュニティ対策委員会
理事が説明している様子



第2回セーフコミュニティ対策委員会
ワークショップでの話し合いの様子

さいたま市5つの セーフコミュニティ 対策委員会

【高齢者の安全対策】

NPO このまちで暮らす会
NPO ケア・ハンズ
NPO さいたま市民ネットワーク
領家介護を考える会
福祉総務課
高齢福祉課
いきいき長寿推進課

【子どもの安全対策】

NPO 親子ふれあい教育研究所
くきCAP
ヒマワリリボンの会
NPO さいたま市民ネットワーク
さいたま市学童保育連絡協議会
子育て支援政策課
青少年育成課
児童相談所
幼児政策課
保育課
健康教育課

オブザーバー

警察

【自転車の安全対策】

Re:サイクリング
さいたま自転車ネットワーク
大宮自動車教習所
NPO さいたま市民ネットワーク
市民生活安全課
自転車まちづくり推進課

【DV防止】

グループSECたまちゃん
女性相談ネット埼玉
さいたま・ウィメンズ・スペース
NPO 女性のスペース「結」
ぐーちょきぱーてぃー
男女共同参画課
男女共同参画推進センター

【自殺予防】

NPO 埼玉カウンセリングセンター
社会福祉法人埼玉いのちの電話
NPO さいたまユースサポートネット
夜明けの会
NPO チャイルドライン
健康増進課
こころの健康センター

次回の予定

7月25日「第3回
セーフコミュニティ
合同対策委員会」

各分野に分かれて
ワークショップを行
います。

行政が持っている
事故やケガのデータ
を踏まえて、事故や
ケガが起こる原因に
ついて、より踏み込
んだ話し合いをして
いきます！

事務局より

セーフコミュニティに
興味・関心がある方が
いましたら、ぜひご紹
介ください！！





第3回さいたま市セーフコミュニティ対策委員会を開催しました。

7月25日（月）、第3回さいたま市セーフコミュニティ対策委員会を開催しました。

前回の対策委員会では、委員の経験や問題意識を踏まえて事故やケガが起きる原因について話し合いをしましたが、今回は、救急搬送データや市民アンケート等、数値やデータになっている客観的な資料を基に課題を見つけていく活動を行いました。

今後は、更に必要なデータを収集するとともに、これまでの話し合いを踏まえながら、さいたま市の重点課題の設定に取り組んでいきます！



第3回セーフコミュニティ対策委員会
ワークショップで話し合いの様子

普及・啓発の取り組み

8月6日、さいたま新都心のコクーンシティで実施された「又っひろば」で、セーフコミュニティ活動のPRを行いました！



8月1日から、さいたま新都心駅前の大型映像装置にて、セーフコミュニティ活動の広告を掲載しています！



次回の予定

8月25日「第4回
セーフコミュニティ
対策委員会」

各分野に分かれて
ワークショップを行います。

課題について話し
合い、整理していき
ます。

セーフコミュニティ講演会のお知らせ

セーフコミュニティ認証自治体である厚木市にて、総合指導員としてご活躍されている倉持隆雄氏による講演会を実施いたします。セーフコミュニティについて更に理解を深めていきましょう！

日時：9月2日（金）14～16時

場所：さいたま市役所消防局庁舎3階 オペレーションルーム

テーマ：セーフコミュニティの概要・対策委員会の役割等

事務局より

セーフコミュニティに興味・関心がある方がいましたら、ぜひご紹介ください！！



“SCの4つのポイントと期待される効果”



厚木市SC総合指導員 倉持 隆雄さん

9月2日（金）に開催された講演会で講師の倉持さんは、セーフコミュニティのポイントと効果を以下のように話されていました！

1. 安心・安全

◆市民の安心・安全意識の向上と事件・事故発生環境の改善

2. 信頼と絆

◆コミュニティの「安全活力」「信頼と絆」の強化

3. イメージアップ

◆人口増、観光誘致、企業誘致などにより、都市間競争に強いまちづくり

4. 公的負担減

◆医療費の軽減、事件・事故処理などの公的負担軽減

“信頼と絆” いいですねえ。安心・安全なまちづくりの基本ではないでしょうか？！
SCを通じて、市民活動団体、市民、事業者、行政などが、ひとつになって、さらに安心・安全なさいたま市を目指しましょう！！

SC活動開始して、5ヵ月が経過...

8月25日（木）に4回目の対策委員会を行いました。議題は、各分野ごと重点課題の検討。主観的課題、客観的課題を踏まえて、重点課題について、話し合いました。今後は、課題の整理をして、取り組みの方向性について、検討を行います。

さて、SC活動開始から5ヵ月が経過しますが、なかなか“セーフコミュニティ”が市民の方へ周知されておりません。事務局では、出前講座を受付しております。興味・関心のある方がいらっしやいましたら、お気軽にご連絡下さい！



重点課題の整理

セーフコミュニティ

説明します

セーフコミュニティって知ってますか？

“さいたま市は、もっと安心安全なまちを目指して、セーフコミュニティの取り組みをスタートしました”

出前講座を受付けております。
興味・関心のある方は、お気軽にご連絡下さい！



連絡先
安心安全課
担当：小池、山崎、宮崎
TEL：829-1135

出前講座チラシ

連絡先

安心安全課

担当：小池、山崎、宮崎

TEL：829-1135

先月、郡山市の対策委員会、泉大津市の本審査、また、日本セーフコミュニティ推進機構主催の研修会へ参加してきました。先にSC活動を行っている先進自治体の体制や取り組み状況を学んできました！



SC啓発シール作成中！

次回の予定

10月下旬
「第5回セーフコミュニティ対策委員会」





第5回さいたま市セーフコミュニティ対策委員会を開催しました。

10月25日（火）、第5回さいたま市セーフコミュニティ対策委員会を開催しました。

今回は、セーフコミュニティの先進自治体である泉大津市の対策委員会の取り組みを学び、今後のさいたま市の取り組みについて、話し合いが行われました。

今後は、今回の話し合いを踏まえながら、さいたま市の重点課題の設定、具体的な取り組みの策定に取り組んでいきます！



第5回セーフコミュニティ対策委員会の様子

ホームページ、出前講座のお知らせ

セーフコミュニティについて、市民の方に分かりやすく知っていただくため、新しくHPコンテンツを作成しました！是非ご覧ください。引き続き、「出前講座」も実施しております。ご関心がある方はお問い合わせください。

さいたま市HPをご覧ください♪



- ①トップページから「セーフコミュニティ」と入力して検索してください。 ②「さいたま市/セーフコミュニティ」をクリックしてください。 ③7つに整理してますので、ご覧ください！

出前講座のお問い合わせはこちらへ♪

担当職員が電話一本で皆さんの所へセーフコミュニティの説明を行います！

事務局 ☎829-1125

次回の予定

12月14日「第6回セーフコミュニティ対策委員会」

各分野に分かれてワークショップを行います。
さいたま市の重点課題について話し合いを行います。

事務局より

セーフコミュニティに興味・関心がある方がいたら、ぜひご紹介ください！！





第6回セーフコミュニティ対策委員会

ヌゥといっしょにPR活動



平成28年12月14日（水）に6回目の対策委員会を行いました。

今回のテーマは「重点課題」。これまで積み上げた、主観的課題、客観的（データ等）な課題を踏まえて、各対策委員会で取組む重点課題について話し合いが行われました。

セーフコミュニティの取組みで重要なのは、根拠（エビデンス）です。「なぜ、これを重点課題にしたのか？」を根拠に基づいて説明できるかがポイントになります。各対策委員会で3つくらいの課題を設定する予定です。

平成28年12月3日（土）に、今年2回目のPR活動を行いました。さいたま新都心コクーンシティ「ヌゥひろば」来場者へSC啓発品を配布しました。

昨年度行った市民アンケート結果によると80%以上がセーフコミュニティを知らないと回答しております。

これからも、PR活動を続けセーフコミュニティの認知度UPを目指します！

一般社団法人日本セーフコミュニティ推進機構 白石 陽子 代表理事の紹介！！

博士（政策科学）

- 一般社団法人日本セーフコミュニティ推進機構代表理事（セーフコミュニティ支援センター）
（インターナショナルセーフスクール認証センター）
- セーフコミュニティ公認認証審査員
- 立命館大学衣笠総合研究機構 研究員
- 韓国亜州（アジョー）大学 医学部 客員教授
- 京都産業大学法学部 非常勤講師



一般社団法人日本セーフコミュニティ推進機構(JISC)は、国際セーフコミュニティ認証センターから支援センターとして認証されている日本で唯一のセーフコミュニティ支援センターです。

さいたま市もJISCに支援をしていただきながら、セーフコミュニティに取組んでおります。

JISCの代表理事であります『白石 陽子さん』に以下のことを聞いてみました！！

Q1 セーフコミュニティに携わったきっかけは？

A1 まちづくりに関わる研究をしていた際、市民も行政も「よいまち」になるために取組んでいるのに両者のギャップを感じていたところSC活動を知りました。「成果」が既にスウェーデンなどで、出ていたので、日本でも取組めるのではないかと考えたのがきっかけです。

Q2 セーフコミュニティの魅力

- A2
- ①地域が一つになって取組む「仕組み」と「体制」であること
 - ②取組み成果を確認できること
 - ③楽しんで取組めること
 - ④他の自治体、他の国に仲間ができること

趣味は、インテリア、料理、ネコと遊ぶこと！

好きな食べ物は、アイスクリームとチョコレート！！

訪問した国は20カ国。
日本語、英語、あと関西弁が話せます！（現在、青森、鹿児島の方言に挑戦中！）



Q3 さいたま市に一言

A3 日本でセーフコミュニティに取組んでいる、まちの中で一番人口が大きなまちです。大きいならではのチャレンジは多いと思いますが、逆にメリットもたくさんあります。「さいたま市」らしい安全なまちづくりを「みんなが一つになって」進めてください。

緑区にある浦和学院高等学校が、平成28年12月8日にセーフコミュニティの学校版、『インターナショナルセーフスクール』の認証を取得しました！！





第7回セーフコミュニティ対策委員会

平成29年1月27日（金）、30日（月）に7回目の対策委員会を行いました。

今回のテーマは前回に引き続き「重点課題」です。これまで積み上げた、主観的課題、客観的（データ等）な課題を踏まえて、各対策委員会で取組む重点課題について話し合いが行われました。

また、今回の委員会では各対策委員会の委員長、副委員長が決定されました。そこで、今回のSC通信では委員長の皆さんをご紹介します。よろしくお願いします♪

自殺対策強化月間街頭キャンペーン
と合同でPR活動を行います！！

平成29年3月1日（水）に、市とJR共催で、自殺対策強化月間街頭キャンペーンを行います。本キャンペーンと合同して、自殺対策委員会委員、健康増進課、安心安全課職員でセーフコミュニティのPR活動を行います。JR大宮駅構内で、SC啓発品を配布する予定です。

これからも、PR活動を続けセーフコミュニティの認知度UPを目指します！

各対策委員会の委員長さんに色々聞いてみました♪



【子どもの安全対策委員長】

水野 臣次さん（市民ネットワーク）

Q1 好きな言葉は？

A1 気楽

Q2 好きな歌は？

A2 まっすぐの唄（海援隊）

Q3 休日の過ごし方は？

A3 ぶらり街歩き

Q4 セーフコミュニティに関わった感想は？

A4 こんな制度があったのかとビックリ！楽しみが増えました。

【自転車の安全対策委員長】

千葉 義則さん（ファインモータースクール）

Q1 好きな言葉は？

A1 一日一善

Q2 好きな歌は？

A2 ラブバラード（松任谷由実）

Q3 休日の過ごし方は？

A3 ゴルフ・スキー等スポーツ全般

Q4 セーフコミュニティに関わった感想は？

A4 市での取り組み状況が良くわかった。今後も色々な意見を出し、協力していきたい。

【高齢者の安全対策委員長】

野辺 由郎さん（領家介護を考える会）

Q1 好きな言葉は？

A1 安全と受容と承認があって、私たちは安心して世界に身を委ねて生きられます。

Q2 好きな歌は？

A2 ソーラン渡り鳥（こまどり姉妹）

Q3 休日の過ごし方は？

A3 さいたま市や埼玉県内の散歩

Q4 セーフコミュニティに関わった感想は？

A4 思いがけない大役に正直困惑しております。私が地域で第二の人生をスタートしたのは、2002年に生まれた「地域福祉」という概念でした。地域は地域住民のものであるという心を大切にしたいと思っています。宜しくお願いします。

【自殺の予防対策委員長】

金子 由美子さん（さいたまユースサポートネット）

Q1 好きな言葉は？

A1 縁

Q2 好きな歌は？

A2 みんなのうた

Q3 休日の過ごし方は？

A3 子どもに関わる研修会への出席

Q4 セーフコミュニティに関わった感想は？

A4 様々な団体の方の活動から自分の組織に生かせる学びがあります。お手数を掛けますが、宜しくお願いします。



第8回セーフコミュニティ対策委員会

平成29年2月28日（火）8回目の対策委員会を行いました。

各対策委員会で重点課題（取組むべき課題）が決まりました。今後は、課題の解決に向けて取組みについて検討を重ねて行きます。

3月28日（火）11時～12時
「第2回さいたま市セーフコミュニティ
推進協議会」を開催します。

活動開始から約1年が経過し対策委員会委員の方へ感想を聞いてみました！！

高齢者の安全対策委員会 中村委員

私は介護保険枠外で、ご高齢の方や障がいのある方への在宅支援活動をさせていただいている有償ボランティアのNPOに所属して22年になります。この活動を通して、ハードやソフトの両面で、個人の力ではどうにもならない様々な課題があることに気づかせていただいております。このような時に、セーフコミュニティ対策委員会のお話をいただき、微力ながらも参加させていただいております。

委員会は5つの対策部会に分かれてはいますが、部会で区切られることなく、目指す目的は『誰もがどのようにしても』安心して安全に暮らせるさいたま市です。心身共に様々な状況に置かれていらっしゃる方の存在を知り、その方々を受け入れることのできる、さいたま市民であってほしいと願っております。

子どもの安全対策委員会 佐野委員

SC対策委員会の会議の中では、さいたま市の子どもに関わる各部署のみなさまや市民団体のみなさまの取り組みやお話を伺い、子ども達の安心安全は各方面からの取り組みの中で、すでに守られている事も知りました。そして更に、実際にケガ等の数字として結果にでている部分や表面に見えない「こころ」の部分も含めて様々な角度からの分析を行ってきました。小学生を対象に行った専門のプログラムの中での出来事ですが、「辛い時、悲しい時はどうしているの？」と聞いてみると、「相談できる人は誰もいないよ。悩みは自分ひとりで考えるんだよ。」と答える子ども達がいきました。今後は、子ども達の声も、しっかりと発信し、子ども達のいきいきとした笑顔あふれる安心安全な街づくりへの新たな取り組みを委員のみなさまと考えていきたいと思います。

自転車安全対策委員会 吉田委員

人が集まらずあきらめかけていた自転車の交通安全運動ですが、市のセーフコミュニティの取り組みをきっかけとして再開して現在に至ります。おかげで来年度から年数回の自転車教室の実施が決まっています。さいたま市は自転車レーンも多くコミュニティサイクルもあり、自転車でボランティアをしやすい環境が整っているので安心です。もはや欧米の自転車先進地域では、市民が自主的に行う自転車の交通安全運動は「当たり前」のものです。行政任せの自転車施策を改めて市民が声を上げるためにがんばっていききたいと思います。

DV防止対策委員会 小泉委員

準備された必要なデータ資料は、多くて、これから始まる事にひるみました。そして、話し合いの中で不足なデータは、どんどん追加提供されました。

それでも積極的に参加できるのは、ハキハキと元気な白石先生だからです。トンネルの中で、遠くに見える小さい明かりを こっちよー！とグングン歩く白石先生に付いていけば、何か正しい方向へ向かっている気がするのです。

毎回、子連れの会議参加で、申し訳なく思いますが、子育て中ママの意見を聞いてくれる場があるのは、うれしいですね。

自殺予防対策委員会 太田委員

セーフコミュニティに参加することになり、何をすればいいのかしらというのが最初でした。民間で活動する団体や行政職員も加わり話し合いを進める中で、あ～結局はここに行きつくのかなあと気持ちが至ったことがありました。それは自助・共助・公助という言葉です。どれが欠けても、人の命は守れないでしょう。

今世界は、自分の利益を追求する方向に向かいつつあるように感じられます。そんな流れに逆らいつつ、地域で命を守るために何ができるか考え・行動する仲間を増やしていく、セーフコミュニティの概念を広められたらと感じています。

